

参入市町村名	新潟県糸魚川市	
法人等名（業態名）	株式会社小田島建設（建設業）	
参入の種別	「翠の里産業共生特区」（平成 16 年 11 月）	
農業部門の概要	栽培作物	水稻（コシヒカリ、こしいぶき、こがねもち）、「越の丸ナス」、蕎麦、ブルーベリー
	経営規模	水稻 14.0ha、ナス 0.08ha、ソバ 1.4ha、ブルーベリー 0.4ha
	雇用者数	役員 3 名、社員 7 名（うち農業専従社員 1 名）、パート 3 名
地域の概要	<p><b>【地域の農業の特徴】</b>          姫川の支流、根知川の流れる根知谷に広がる水田地帯で、中山間地域の利点を生かし、高品質米の生産に取り組んでいる。</p> <p><b>【農業構造】</b>          市は農家世帯数割合 20%、農業就業人口 11%と年々担い手の減少が進むと同時に担い手の高齢化が著しく、市内の全耕地 2,820ha のうち水田が 92%を占め、農業産出額も米が 4 分の 3 を占めるが、一戸当たりの平均耕作面積は 50a程度。</p> <p><b>【自治体としての農業への取り組み】</b>          集落営農の組織化等を通じた継続的・安定的な農業経営の育成が課題。園芸作物の振興を進めており、市では平成 16 年に「翠の里産業共生特区」の承認を受けて、遊休農地の解消等に努めている。</p>	
参入の動機、きっかけ、参入の経過など	地区においても中山間地域から農地の荒廃化が進み、放置すれば平場の基盤整備田も荒廃が進むとの懸念から、農地の保全の道を模索。平成 12 年に農業生産法人「(有)やる米花農業」を立ち上げ、水稻の全面受託と作業受託を開始。平成 16 年に市が農業特区の認定を受けたことから、会社としても農業を実施。当初、新たな耕作放棄地を出さないという思いから出発しており、また地元農家とあつれきを生じたくないという思いから農地借受については 100%受け身。	
農業経営（農業事業）の内容	水稻 14.0ha のうちコシヒカリ 9.0ha（うち 5.8ha は 5 割減農薬化学肥料の県認証米）、こしいぶき 3.2ha、こがねもち 1.8ha を作付。園芸作物として市の特産である「越の丸ナス」を 8a 作付け。売り上げは 2,500 万円程度を見込んでいる。一般管理費（事務所経費）を除けばプラスに転じる。	
農産物の販売状況	水稻のうちモチはほぼ JA 出荷。コシといぶきは 5 割を JA、5 割を直接販売。越の丸ナスは JA を通じて東京市場へ出荷している 蕎麦は全量地元スキー場へ卸す。ブルーベリーは 7 月上旬～9 月下旬までの収穫期は生食で、また一年を通じてジャムに加工し販売。	
農業参入にあたって苦労したこと	先に農業生産法人を立ち上げ、農業に携わっていたので、農業参入に苦労はなかったが、ほ場のくせ、特徴をつかむのに時間がかかった。中山間の耕作放棄地だった農地は米作には向かず、蕎麦やブルーベリーの生産に切り替えた。	
現在の課題、問題点	米価が下がってきている中、採算性の確保が問題。条件の悪い農地の有効利用が鍵。さらに農産物の付加価値を高め、販売方法の工夫が必要。自社生産品の顧客増大と当地域の知名度のアップ 減反政策の廃止等より農業の自由化、競争力の向上を求められているが、我々が取り組んでいる中山間地域における耕作放棄地の防止には、おのずと限界がある。	

<p><b>農業参入で良かったと思う点</b></p>	<p>農業参入により、会社への信頼が一層高まるとともに、春の作業の少ない時期に社員の活用が図られるようになった。また地域にも社内においても活気が出てきた。</p>
<p><b>今後の展開方向、行政や関係機関に望むこと</b></p>	<p>社員一丸となった、さらなる品質の向上、コスト削減への取組み。  農家の高齢化により弊社が耕作する農地は増加し続けるが、適正規模の見極めが重要。また米作りだけでなく露地野菜の生産の検討。  農業を取り巻く環境が目まぐるしく変わる中、将来に向け農業をまた地域(田舎)の進むべき方向性を早急に出してほしい。(競争力のない地域は消滅していくのか、また別の価値を見いだし保護するのか等)</p>